

令和4年度

柏市学力・学習状況調査
結果報告

令和5年3月

柏市教育委員会

目次

◆教育長巻頭言

1	調査の概要	・・・・・・・・・・	P1
	（1）調査目的		
	（2）調査対象・調査教科等		
	（3）調査内容		
2	調査結果の概要	・・・・・・・・・・	P2
	（1）全体概要		
	（2）教科毎総評（学年全体を通して）		
	（3）平均正答率		
	（4）達成率		
	（5）中央値		
3	教科別調査結果概要【小学校】	・・・・・・・・・・	P4
	（1）国語		
	（2）算数		
4	教科別調査結果概要【中学校】	・・・・・・・・・・	P16
	（1）国語		
	（2）数学		
	（3）英語		
	（4）理科		
5	「4つのC」	・・・・・・・・・・	P24
	（1）質問項目一覧		
	（2）「4つのC」の概況		

豊かな学びに向けて

柏市教育委員会

教育長 田 牧 徹

柏市学力・学習状況調査は、子供たちの学習状況を把握し、指導の改善に生かすことを目的としています。令和4年度は、目的に向けてより実効性の高い調査にするために、調査時期を例年の4月から11月に変更し、調査結果が履修年度内に返却されるスケジュールへと変更しました。これにより、履修年度内に成果と課題を分析することが可能となり、次年度へ向けてより組織的な検討が進められます。そして、学校教育目標に掲げた目指す子供像に向けた授業改善が実現され、カリキュラム・マネジメントが一層進むものと考えます。

全ての子供に学ぶ意欲を育む教育内容や授業の充実を図っていくためには、教師一人一人に調査結果からわかる「学びの事実の省察」が求められます。目の前の子供たちは毎日の授業でどんな学びを得たのか、その子供たちをどう伸ばすか、そのために何を行うか熟考を重ねつつ、指導内容に関する専門性を高めていく必要があります。また、学年あるいは学校全体で試行錯誤しながら、指導方法の工夫を重ねていただけることを期待しています。

これらの組織的な取り組みによってもたらされる教師一人一人の授業力の向上は、教育活動の質の向上、学習者としての子供一人一人の学びを充実させ、子供たちが未来の社会を生きる力の基礎を培うことにもなります。

時代を担う子供たちに求められる資質・能力が生まれ、子供たち、教師、学校に、豊かな学びに向けたより良い変化が表れることを切に望むところです。

1 調査の概要

(1) 調査目的

児童生徒の学力・学習状況を把握し、各学校における学習指導及び生徒指導等の改善並びに教育委員会の施策・事業の改善等に資する。

(2) 調査対象・調査教科等

対象学年	人数	調査教科等	
小学校	1年	3681人	国語・算数
	2年	3661人	
	3年	3430人	生活・学習意識調査
	4年	3515人	
	5年	3495人	
	6年	3611人	
中学校	1年	3177人	国語・数学・理科・英語
	2年	3105人	生活・学習意識調査
	3年	2929人	生活・学習意識調査

(3) 調査内容

ア 教科に関する調査

(ア) 調査日

令和4年11月7日(月)～令和4年12月2日(金)の期間中で、各学校が設定した日

(イ) 調査問題構成

- ・当該学年の10月末までの履修範囲
- ・学習指導要領に基づいた観点・領域などから学力を総合的に測定できる内容
- ・記述式を含む内容
- ・基礎及び応用の両面からの出題
- ・思考・判断・表現を測る問題については主に論述式での出題
- ・教科意識調査

イ 生活・学習意識調査

(ア) 調査日

柏市学力調査の実施日と同日。

※中学校3年生は、実施期間内の任意の日時に設定する。

(イ) 調査方法

一人一台端末を使用して、Google Formsへ回答する(CBT方式)

(ウ) 調査内容

- ・学習意欲、学習習慣、生活習慣に関するアンケート調査
- ・小1から中3まで、ほぼ同一設問で調査
- ・調査項目のうち18項目は、「4つのC」を測る指標として数値化

(エ) 「4つのC」について

柏市教育委員会では、柏市第五次総合計画後期基本計画及び第2次柏市教育振興計画を受け、柏市の子供たちに付けたい力を「4つのC」として示している。

本調査において、この「4つのC」から見取れる児童生徒の現状を毎年度把握し、目指す姿に向けて各種取組を進めている。

① 見通す力 (Concept)	② 挑戦する力 (Challenge)
③ 関わり合う力 (Communication)	④ 自律する力 (Control)

2 調査結果の概要

(1) 全体概要

下記表は、教科毎に「教科総合」「基礎」「応用」について、評価規準に照らし合わせ、柏市と全国の平均正答率との差を評価した結果を示している。

小学校は、学年や教科によって評価結果に違いが見られる。国語の教科総合及び基礎は、1年生及び3年生が全国値をやや下回ったが、その他の学年はほぼ同等であった。応用は、課題が見られる学年が多かった。算数は、5年生・6年生の教科総合・基礎・応用が全国値とほぼ同等だった。1年生～4年生にかけては、課題が見られる結果となった。

中学校は、国語及び理科が教科総合・基礎・応用において全国値とほぼ同等であった。数学は、1年生・2年生の応用が全国値とほぼ同等であったが、その他の評価は、全て全国値をやや上回る良好な結果となった。英語は、1年生の応用が全国値を上回り、その他の評価は、全て全国値をやや上回る良好な結果となった。

国語		教科総合	基礎	応用	算数/数学		教科総合	基礎	応用
小	1年	▽	▽	▽	小	1年	▼	▽	▼
	2年	≒	≒	≒		2年	▽	▽	≒
	3年	▽	▽	≒		3年	▽	▽	▼
	4年	≒	≒	▽		4年	▽	▽	▼
	5年	≒	≒	▽		5年	≒	≒	≒
	6年	≒	≒	▼		6年	≒	≒	≒
中	1年	≒	≒	≒	中	1年	○	○	≒
	2年	≒	≒	≒		2年	○	○	≒

理科		教科総合	基礎	応用	英語		教科総合	基礎	応用
中	1年	≒	≒	≒	中	1年	○	○	◎
	2年	≒	≒	≒		2年	○	○	○

評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

(2) 教科毎総評（学年全体を通して）

小学校	国語	<ul style="list-style-type: none"> 「知識・技能」は定着が見られる学年が多い。 「読むこと」は、学年に応じた内容の読み取りはできている。 「読むこと」「書くこと」は、基礎の定着を図りつつ、自分の考えをまとめたり広げたりできるように、友達と共有したり、推敲したりする活動を充実させたい。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 領域別では、「変化と関係」「データの活用」が良好な結果であった。「図形」の領域では、作図に課題が見られた。図形の構成の仕方に着目し、条件に合った図形を作図する技能を高めたい。 基礎より応用が下回った。学んだ知識を活用する機会を設けていくことが大切である。
中学校	国語	<ul style="list-style-type: none"> 出題形式を問わず、どの観点、どの領域でも全国平均正答率とほぼ同等であった。 読むことは、説明文、物語文のどちらも内容の解釈はできていた。友達と共有し、考えを確かなものにする活動を充実させたい。 書くことは、他の設問に比べ、無解答率が高い。様々な資料から情報を整理し、根拠を明確にして記述する力を高めていく必要がある。
	数学	<ul style="list-style-type: none"> 観点別では、「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに良好な結果であった。 領域別では、「数と式」「関数」が良好な結果であった。 記述式設問の無解答率が高いことが課題である。数学的活動と問題解決の過程を交流する活動を取り入れたい。
	理科	<ul style="list-style-type: none"> 観点別では、「思考・判断・表現」が良好な結果であった。 記述式設問の無解答率が高いことが課題である。身に付けた「知識・技能」を活用できるように、実際に生活や自然を視野に入れた学習活動を展開し、考えたり説明したりする学習活動を充実させたい。
	英語	<ul style="list-style-type: none"> 出題形式を問わず、どの観点、領域においても、良好な結果であった。 選択式よりも記述式の方が良好な結果であった。 基礎よりも応用の方が良好な結果であったが、どちらにおいても二極化が見られた。個に応じた指導、支援を進めていきたい。

(3) 平均正答率 (%)

		国語		算数/数学		英語		理科	
		全国値との差	全国との差	全国との差	全国との差	全国との差	全国との差		
小学校	1年	78.7	-2.2	83.1	-4.0				
	2年	83.6	-0.3	73.2	-2.2				
	3年	68.8	-2.1	68.6	-3.3				
	4年	57.2	-0.7	68.6	-3.5				
	5年	63.8	-1.3	61.3	-1.1				
	6年	69.1	-1.4	66.5	-1.6				
中学校	1年	65.1	0.9	52.9	2.2	66.8	3.7	64.6	-1.5
	2年	74.9	0.6	55.3	2.0	52.6	2.8	59.2	0.9

(4) 達成率 (%)

達成率とは、その集団において、目標値(目標正答率)に達している児童生徒の人数の割合のこと。目標値とは、「おおむね満足」と言える水準として設定した、目標とする正答率(%)である。

		国語		算数/数学		英語		理科	
		全国値との差	全国との差	全国との差	全国との差	全国との差	全国との差		
小学校	1年	69.2	-4.3	70.0	-8.4				
	2年	79.9	0.0	66.1	-4.4				
	3年	64.4	-3.7	72.2	-5.0				
	4年	71.5	-1.5	66.8	-6.2				
	5年	66.4	-3.7	63.4	-1.1				
	6年	63.1	-3.2	70.2	-3.0				
中学校	1年	75.6	2.5	60.8	4.2	68.2	7.7	71.5	-1.7
	2年	66.1	1.5	58.0	4.0	59.7	4.7	60.4	3.4

(5) 中央値 (%)

中央値とは、その集団における正答率を大きい順に並べたとき、全体の中央に来る値(つまり、真ん中の順位にあたる児童生徒の正答率)のこと

		国語		算数/数学		英語		理科	
		全国値との差	全国との差	全国との差	全国との差	全国との差	全国との差		
小学校	1年	85.7	0.0	87.0	-4.3				
	2年	90.5	0.0	79.2	0.0				
	3年	71.4	0.0	72.0	-4.0				
	4年	59.1	0.0	71.4	-3.6				
	5年	64.0	-4.0	61.5	-3.9				
	6年	70.4	-3.7	70.4	0.0				
中学校	1年	67.9	3.6	55.2	3.5	69.0	6.9	67.9	0.0
	2年	79.3	3.4	53.6	3.6	48.4	3.2	59.4	0.0

3 教科別調査結果概要 【小学校】

(1) 国語 平均正答率 (%)

1年生 (小・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		78.7	80.9	-2.2	▽
基礎		85.0	87.2	-2.2	▽
応用		40.6	43.3	-2.7	▽
平均 正答率 (%)	出題形式				
	選択式	81.2	83.7	-2.5	▽
	短答式	92.6	94.3	-1.7	≒
	記述式	40.6	43.3	-2.7	▽
観点	知識・技能	91.7	93.6	-1.9	≒
	思考・判断・表現	66.9	69.5	-2.6	▽
領域	言葉の特徴や使い方	91.7	93.6	-1.9	≒
	話すこと・聞くこと	86.0	89.2	-3.2	▽
	書くこと	40.6	43.3	-2.7	▽
	読むこと	59.7	62.1	-2.4	▽

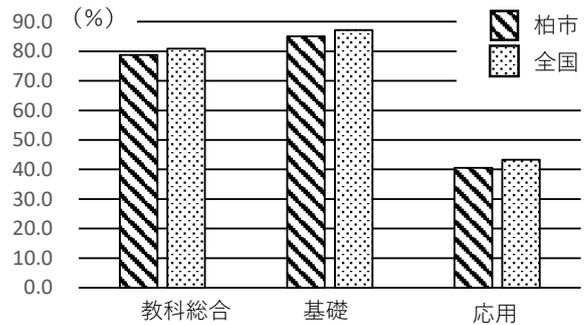
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

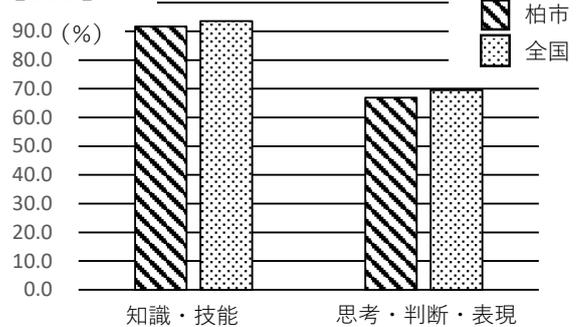
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

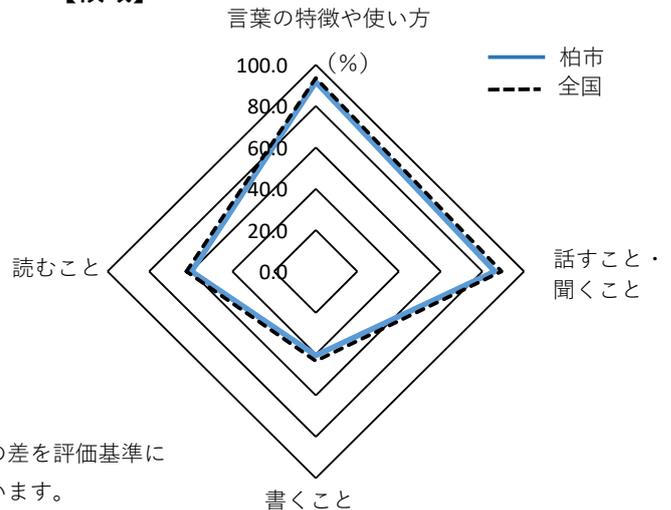
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率をやや下回る。
- ・知識・技能は平均正答率が90%を超えており、言葉の特徴や使い方についての定着が見られる。
- ・言葉の特徴や使い方、読むことに関する短答式の平均正答率が高い。一方で、記述式では40%程度の平均正答率で、無解答率も高い。習得した言葉や漢字等を実際に使うことによって有効性を実感させたり、読み取って考えたことを自分の言葉で文章で表現させたりしながら、記述への抵抗を減らしていきたい。
- ・書くことは、全国的にも平均正答率が低い。1年生にとって考えを記述することは難しいと考えられるが、柏市は全国を下回っており、無解答率も高い。授業の中で、自分の考えを書く活動を計画的に取り入れていく必要がある。

2年生 (小・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		83.6	83.9	-0.3	≒
基礎		86.0	86.4	-0.4	≒
応用		69.1	69.0	0.1	≒
出題形式	選択式	80.0	80.9	-0.9	≒
	短答式	90.9	90.8	0.1	≒
	記述式	69.1	69.0	0.1	≒
観点	知識・技能	90.9	90.8	0.1	≒
	思考・判断・表現	77.0	77.6	-0.6	≒
領域	言葉の特徴や使い方	90.9	90.8	0.1	≒
	話すこと・聞くこと	84.2	85.7	-1.5	≒
	書くこと	69.1	69.0	0.1	≒
	読むこと	74.3	74.6	-0.3	≒

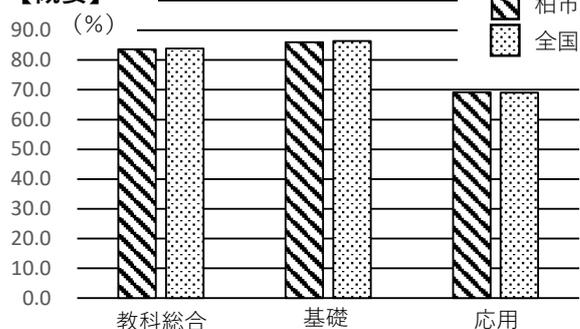
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

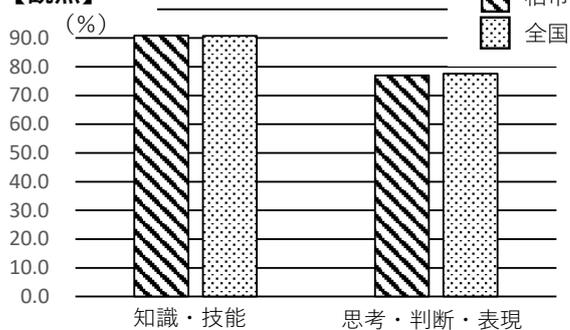
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

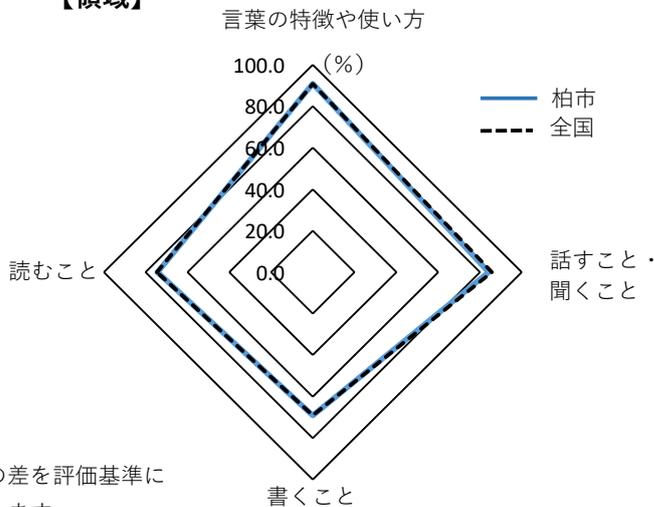
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率とほぼ同等。
- ・問題形式を問わず、どの観点、どの領域においても、全国平均正答率とほぼ同等。
- ・知識・技能は平均正答率が90%を超えており、言葉の特徴や使い方についての定着が見られる。全国正答率が低い難問の漢字でも、80%の正答率で、全国より12ポイントも高い。
- ・書くこと、読むことは全国平均正答率とほぼ同等である。
- ・書くことに関しては、書こうとはしているが、解答内容の一部分しか書けていなかったり、問われていることから外れた解答であったりと課題が見られた。書きたいことを整理し、明確にしてから書く活動を行っていく必要がある。また、書く目的から外れていないかという視点から書いた文章を読み返す習慣を付けさせたい。

3年生 (小・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		68.8	70.9	-2.1	▽
基礎		74.6	77.1	-2.5	▽
応用		44.2	44.1	0.1	≒
平均正答率 (%)	出題形式				
	選択式	74.1	76.8	-2.7	▽
	短答式	75.2	76.9	-1.7	≒
	記述式	34.9	34.9	0.0	≒
観点	知識・技能	76.0	81.0	-5.0	▼
	思考・判断・表現	64.3	64.6	-0.3	≒
領域	言葉・情報・言語文化	76.0	81.0	-5.0	▼
	話すこと・聞くこと	88.5	89.3	-0.8	≒
	書くこと	37.9	37.8	0.1	≒
	読むこと	55.0	55.0	0.0	≒

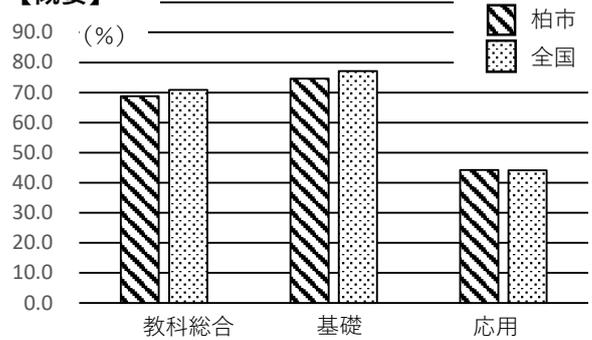
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

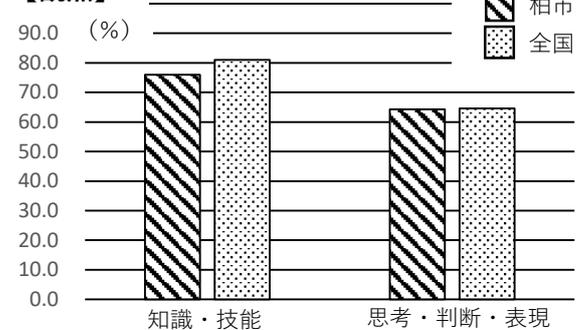
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

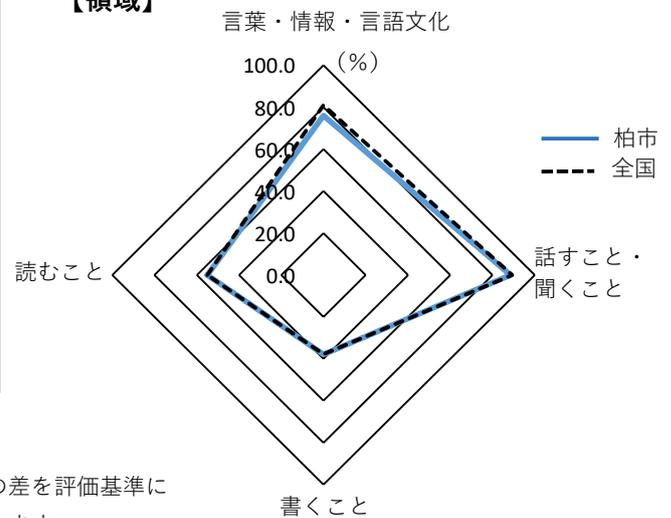
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率をやや下回る。
- ・基礎は全国平均正答率をやや下回るが、応用は全国平均正答率とほぼ同等である。
- ・基礎の中でも、言語に関することが全国平均正答率を下回っている。特に、主語を選び出す設問は大幅に下回っている。主語と述語との関係や修飾と被修飾との関係についての理解を図れるよう、継続して指導していく。
- ・読むことは全国平均正答率とほぼ同等である。特に物語では登場人物の行動や気持ち等を捉えることができる児童が多い。一方で、説明文は文章の構造や内容を把握できるようにする必要がある。
- ・書くことは、無解答よりも誤答が多かった。書いた後に友達と共有して推敲する活動を行い、相手に伝わりやすい構成となっているかを確認し合う活動を充実させたい。

4年生 (小・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		57.2	57.9	-0.7	≒
基礎		65.0	65.1	-0.1	≒
応用		22.2	25.2	-3.0	▽
平均正答率 (%)	出題形式				
	選択式	64.7	65.6	-0.9	≒
	短答式	60.3	58.9	1.4	≒
	記述式	16.8	20.2	-3.4	▽
観点	知識・技能	61.6	61.8	-0.2	≒
	思考・判断・表現	54.2	55.1	-0.9	≒
領域	言葉・情報・言語文化	61.6	61.8	-0.2	≒
	話すこと・聞くこと	77.9	78.9	-1.0	≒
	書くこと	23.2	26.0	-2.8	▽
	読むこと	42.6	42.7	-0.1	≒

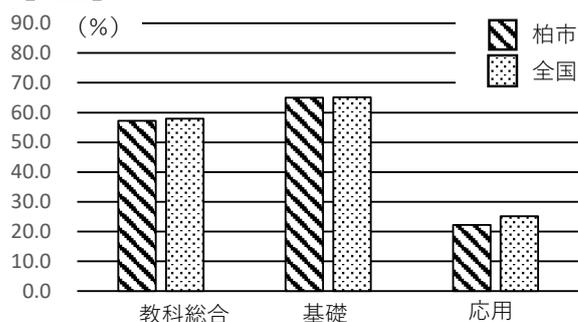
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

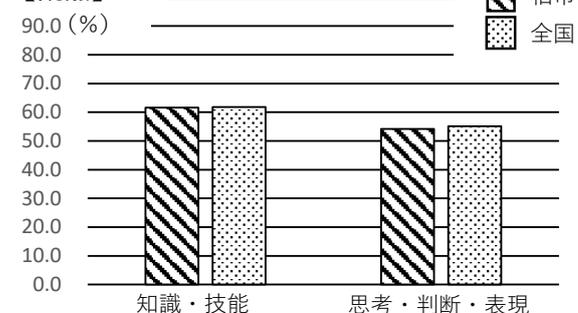
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に
照らし合わせて判定しています。

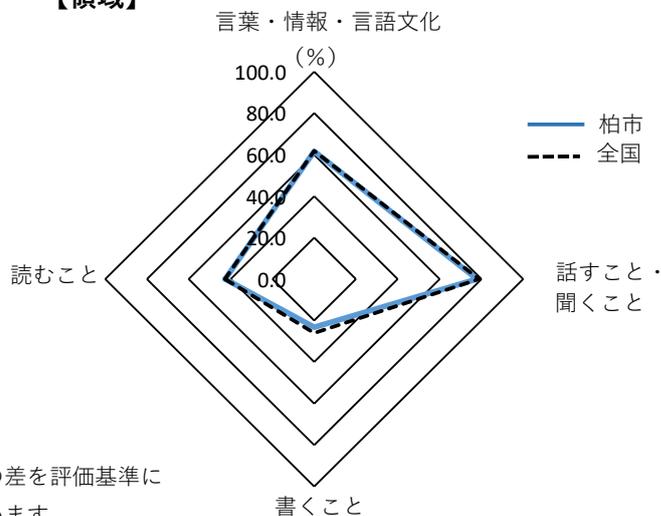
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率とほぼ同等。
- ・基礎は全国平均正答率とほぼ同等だが、応用はやや下回る。
- ・言語に関することは、漢字の読み書きが全国平均正答率とほぼ同等か上回っている。一方で、漢字辞典に関わることやことわざへの理解は弱いので、日常的に使う経験をさせていきたい。
- ・読むこと、書くことは難問で、全国的に正答率がかなり低く、柏市も低い。なお、全学年の調査問題中の最低全国平均正答率は小4国語の読むこと、書くことの設定問である。
- ・物語は登場人物の行動や気持ちを読み取ることができている。さらに、物語全体を見通して、複数の叙述を基に捉えることができるようにしていく必要がある。
- ・書くことについて、文章を書くこと自体はできている。より伝わりやすい文章構成となるように、理由や事例との関係を構成段階で意識させたり、友達の考えを取り入れて推敲させたりする活動をさらに取り入れていきたい。

5年生 (小・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		63.8	65.1	-1.3	≒
基礎		69.7	70.6	-0.9	≒
応用		40.1	42.7	-2.6	▽
平均正答率 (%)	出題形式				
	選択式	66.9	67.6	-0.7	≒
	短答式	77.4	79.0	-1.6	≒
	記述式	29.0	31.8	-2.8	▽
観点	知識・技能	72.3	73.5	-1.2	≒
	思考・判断・表現	57.1	58.4	-1.3	≒
領域	言葉・情報・言語文化	72.3	73.5	-1.2	≒
	話すこと・聞くこと	89.9	90.3	-0.4	≒
	書くこと	32.9	35.8	-2.9	▽
	読むこと	40.2	41.1	-0.9	≒

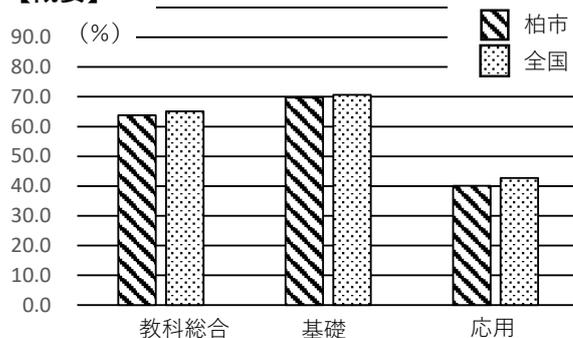
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

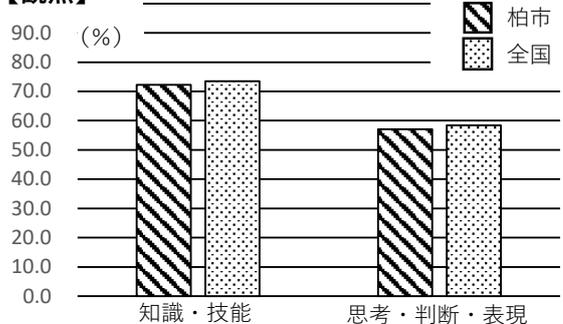
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

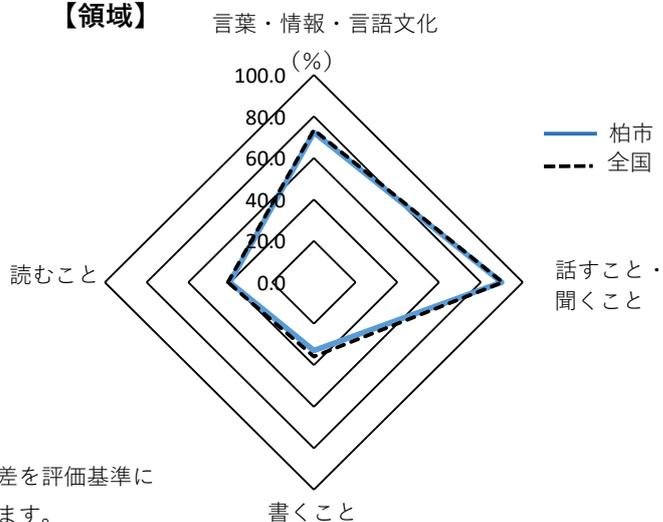
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率とほぼ同等。
- ・基礎は全国平均正答率とほぼ同等だが、応用はやや下回る。無解答率が20%を超える項目が全国平均より多い。
- ・言語に関することは、全国平均正答率とほぼ同等だが、問題ごとに正答率の高低が見られた。漢字や敬語、慣用句等を日常的に使う経験をさせ、定着を図っていく。
- ・読むこと、書くことは全国的に平均正答率が低く、柏市も低い。
- ・物語は、直接的な叙述等から大体の内容を捉えることができているが、描写から心情を捉える問題は正答率が低い。授業の中で描写に着目して読み、具体的にイメージしたことを友達と共有し、自分の考えを広げる活動を重視したい。
- ・書くことは、集めた情報を整理・分類・関係付けすることで伝えたいことを明確にさせてから作文等を書くようにする必要がある。

6年生 (小・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		69.1	70.5	-1.4	≒
基礎		69.7	70.7	-1.0	≒
応用		65.2	69.4	-4.2	▼
平均正答率 (%)	出題形式				
	選択式	69.9	71.1	-1.2	≒
	短答式	71.6	71.7	-0.1	≒
	記述式	58.7	63.9	-5.2	▼
観点	知識・技能	65.6	67.0	-1.4	≒
	思考・判断・表現	71.4	72.9	-1.5	≒
領域	言葉・情報・言語文化	65.6	67.0	-1.4	≒
	話すこと・聞くこと	85.1	85.4	-0.3	≒
	書くこと	59.2	64.0	-4.8	▼
	読むこと	66.4	67.9	-1.5	≒

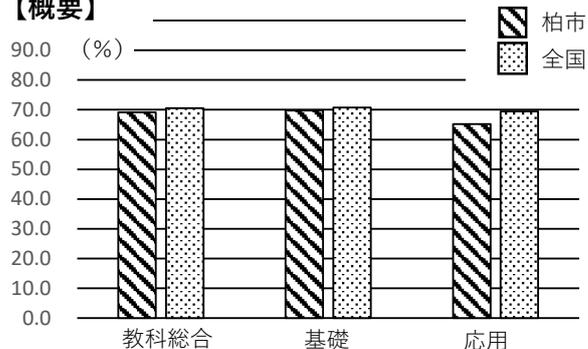
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

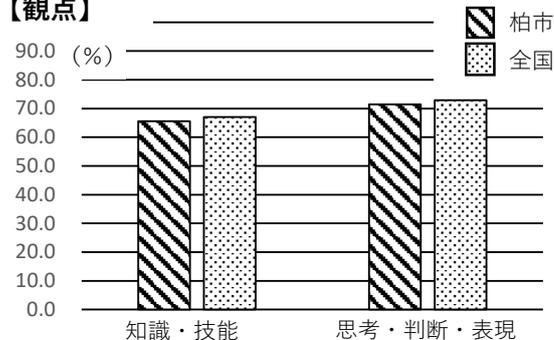
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

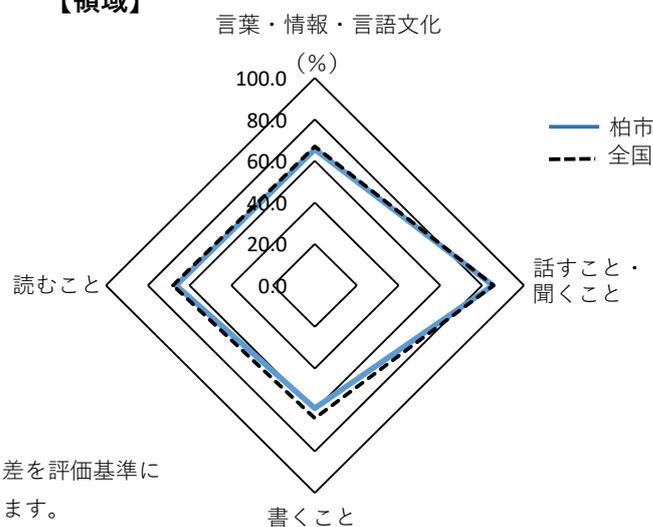
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的には全国平均正答率とほぼ同等。
- ・基礎は全国平均正答率とほぼ同等だが、応用は下回る。
- ・言語に関することは、全国平均正答率とほぼ同等だが、漢字や敬語を日常生活で意図的に使い、さらに定着を図る必要がある。
- ・説明文や物語を読むことは、全国平均正答率とほぼ同等で、内容を捉えることができている。
- ・書くことは、メモや話し合いの内容を整理して書くことが全国平均正答率を下回っており、無解答率も高い。授業では、話し合いをもとに意見をまとめる活動を充実させていきたい。また、文章を書いた後に、友達と共有して推敲する活動を取り入れ、文章構成に対する意識と見方を高めていくことも重要である。

(2) 算数 平均正答率 (%)

1年生 (小・算数)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		83.1	87.1	-4.0	▼
基礎		89.2	91.6	-2.4	▽
応用		61.1	70.8	-9.7	▼
出題形式	選択式	88.7	91.4	-2.7	▽
	短答式	89.7	91.8	-2.1	▽
	記述式	61.1	70.8	-9.7	▼
観点	知識・技能	89.2	91.6	-2.4	▽
	思考・判断・表現	61.1	70.8	-9.7	▼
領域	数と計算	81	85.6	-4.6	▼
	測定	89.3	91.6	-2.3	▽
	データの活用	88.8	91.3	-2.5	▽

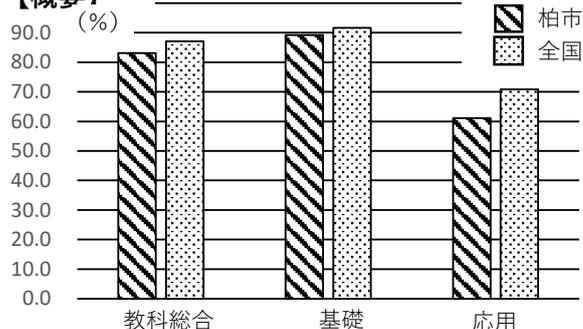
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

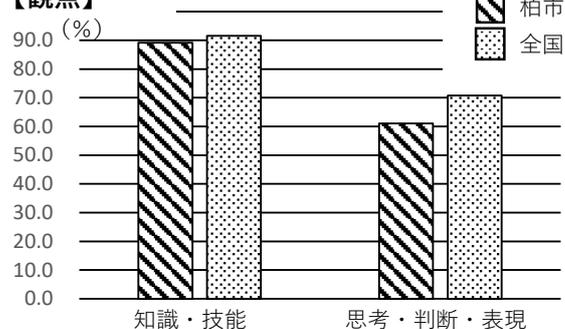
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

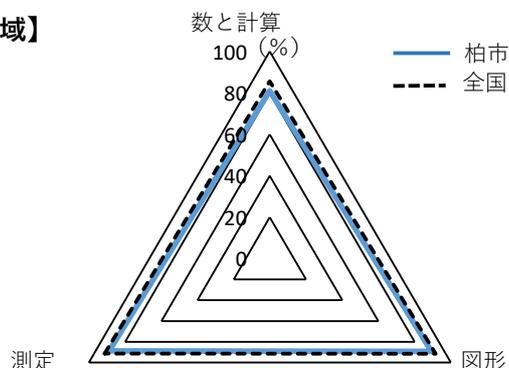
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率を下回っている。
- ・基礎は、ほとんどの設問が90%近い正答率であり、定着が見られる。しかし、個人差が非常に大きいため、個に応じた指導・支援をする必要がある。
- ・数の合成や順序に関する設問、時計を読んで正しい時刻を選ぶ設問では、高い正答率である。引き続き、生活の中で実際に数を使うことで、数を使うよさを感じ、数についての感覚をさらに豊かにしていきたい。
- ・応用は、全国を下回っている。
- ・応用が下回った要因に、与えられた絵から加法及び減法の問題文をつくる記述式設問での正答率の低さが考えられる。計算を実際の生活の場面と結び付ける活動を充実させたい。

2年生 (小・算数)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		73.2	75.4	-2.2	▽
基礎		78.3	80.5	-2.2	▽
応用		53.9	55.7	-1.8	≒
出題形式	選択式	74.0	76.4	-2.4	▽
	短答式	78.0	79.5	-1.5	≒
	記述式	59.4	62.3	-2.9	▽
観点	知識・技能	77.5	79.9	-2.4	▽
	思考・判断・表現	60.4	61.7	-1.3	≒
領域	数と計算	79.5	81.4	-1.9	≒
	図形	70.8	74.8	-4.0	▼
	測定	60.4	61.8	-1.4	≒
	データの活用	82.5	85.3	-2.8	▽

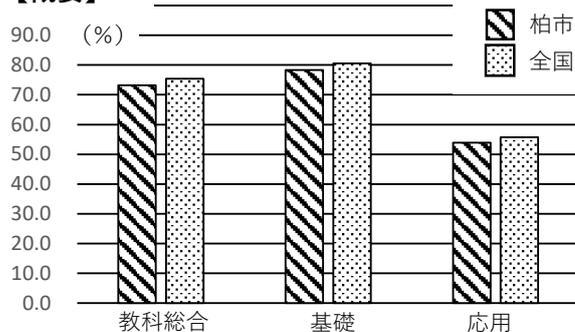
評価基準

● 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

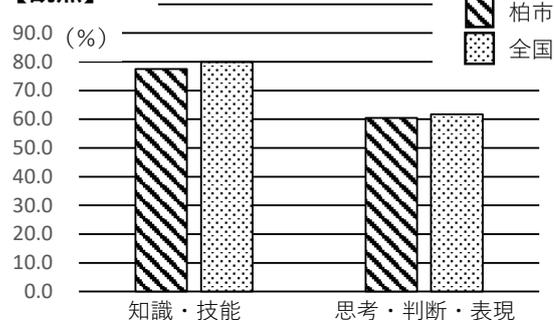
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

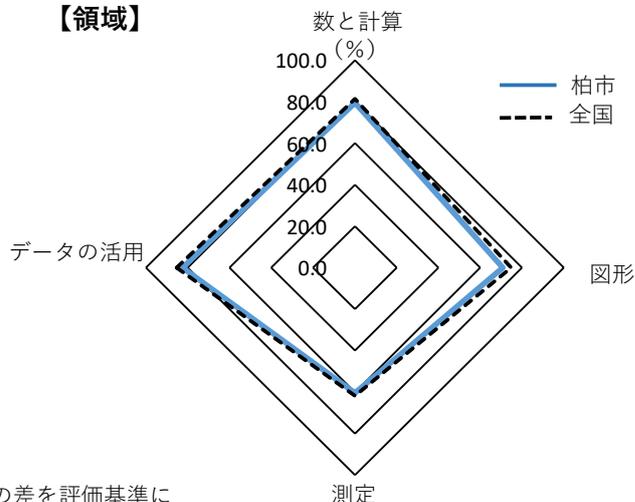
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率をやや下回る。
- ・基礎は全国平均正答率をやや下回るが、応用はほぼ同等。
- ・グラフから設問場面の表す項目を読み取ることや、時計が進んだ時間の長さから時刻を読み取ることの正答率が高い。
- ・「図形」領域において、図形の移動・構成・分解を問う設問に課題が見られた。色板や数え棒などの具体物を使って、図形を見る・比べる・動かす・見つける活動を通して、平面図形についての基礎となる感覚を豊かにする機会を設けていきたい。
- ・3位数-2位数(繰り下がりあり)の計算は、3位数+2位数(繰り上がりあり)の計算より平均正答率が大きく落ち込んだ。子供たちのつまづき箇所を把握した上で、個別対応を中心にした指導を取り入れていきたい。

3年生 (小・算数)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		68.6	71.9	-3.3	▽
基礎		74.2	76.9	-2.7	▽
応用		46.4	52.1	-5.7	▼
平均正答率 (%)	出題形式				
	選択式	70.3	72	-1.7	≒
	短答式	72.3	76.8	-4.5	▼
	記述式	60	63.7	-3.7	▽
観点	知識・技能	72.1	75.5	-3.4	▽
	思考・判断・表現	59.7	62.6	-2.9	▽
領域	数と計算	71.2	73.8	-2.6	▽
	図形	64.1	69.3	-5.2	▼
	測定	64.1	67.5	-3.4	▽

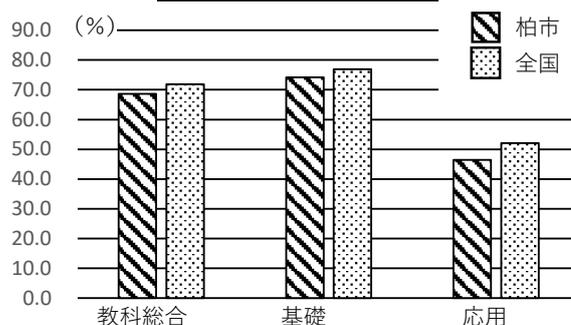
評価基準

● 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

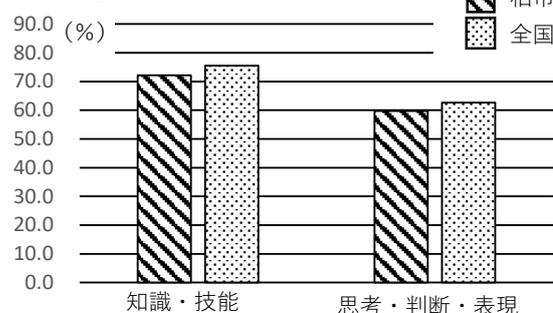
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

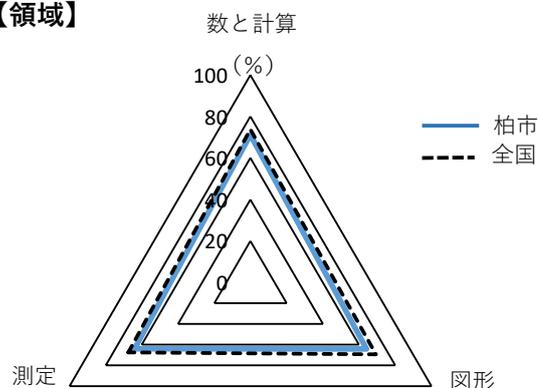
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率をやや下回る。
- ・基礎よりも応用が全国平均正答率を下回っている。
- ・単位を揃えて和を求める計算の正答率が高いが、単位換算することに課題が見られた。長さや重さを実感的に捉えさせ、単位間の関係を正しく理解することを授業で大切に指導したい。
- ・「図形」領域に課題が見られる。与えられた条件に合う直角三角形の作図の正答率は、全国平均よりも大幅に低い。三角形についての基礎的な知識の定着と同時に、作図の技能を高めたい。そのためには、様々な方法で三角形を作る活動を行い、図形に対する感覚を豊かにしていく必要がある。
- ・除法において、問題場面に合わせてあまりの処理をすることができずに誤答となるケースが目立った。計算の練習を繰り返すばかりでなく、実際の生活の場面と結び付けて計算する活動を充実させたい。

4年生 (小・算数)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		68.6	72.1	-3.5	▽
基礎		72.7	75.7	-3.0	▽
応用		53.3	58.8	-5.5	▼
出題形式	選択式	72.4	73.9	-1.5	≒
	短答式	67.0	71.8	-4.8	▼
	記述式	60.1	65.7	-5.6	▼
観点	知識・技能	70.4	73.8	-3.4	▽
	思考・判断・表現	60.2	64.0	-3.8	▽
領域	数と計算	67.5	71.7	-4.2	▼
	図形	62.5	67.3	-4.8	▼
	測定	72.6	75.0	-2.4	▽
	変化と関係	74.1	74.1	0.0	≒
	データの活用	85.3	85.2	0.1	≒

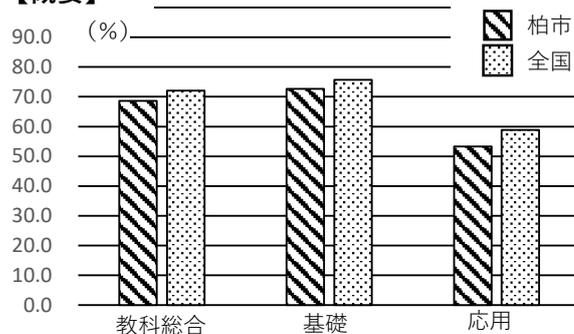
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
キ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

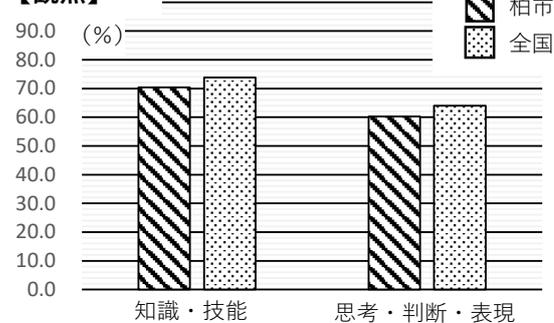
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

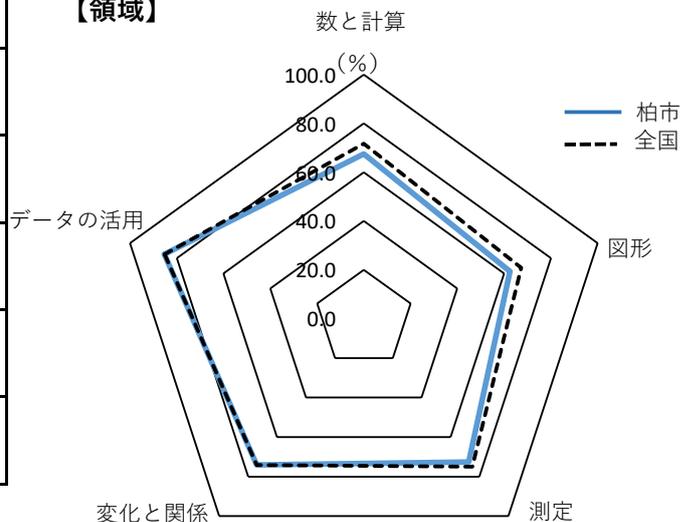
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率をやや下回る。
- ・基礎よりも応用が全国平均正答率を下回っている。
- ・「数と計算」領域は、他の領域と比べ二極化が顕著である。個に応じた指導・支援をしていく必要がある。
- ・「変化と関係」及び「データの活用」領域は、全国平均正答率とほぼ同等である。
- ・「図形」領域では、二等辺三角形の作図や円の直径の性質を生かして答えを導く設問に課題が見られた。図形をかいたり、具体物で確かめたりする活動を重視することで、図形を構成する要素に着目し、さらに、その観点を他の図形の構成を捉える際にも用いることができるようにさせていく。

5年生 (小・算数)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		61.3	62.4	-1.1	≒
基礎		66.5	67.7	-1.2	≒
応用		51.6	52.4	-0.8	≒
出題形式	選択式	65.0	66.1	-1.1	≒
	短答式	63.6	64.8	-1.2	≒
	記述式	48.6	49.5	-0.9	≒
観点	知識・技能	66.3	67.4	-1.1	≒
	思考・判断・表現	44.6	45.8	-1.2	≒
領域	数と計算	64.2	65.2	-1.0	≒
	図形	51.7	53.6	-1.9	≒
	変化と関係	71.4	72.2	-0.8	≒
	データの活用	63.0	62.0	1.0	≒

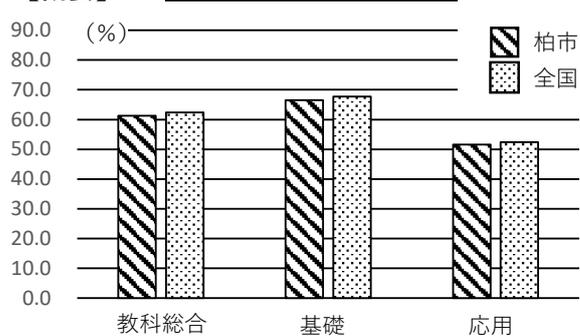
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

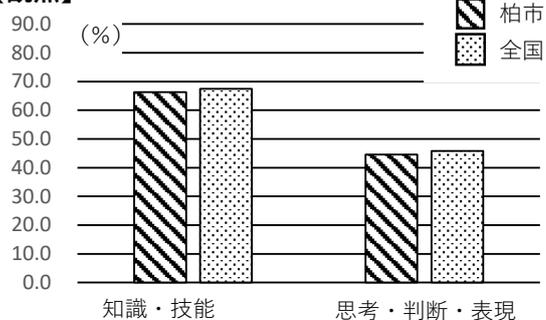
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

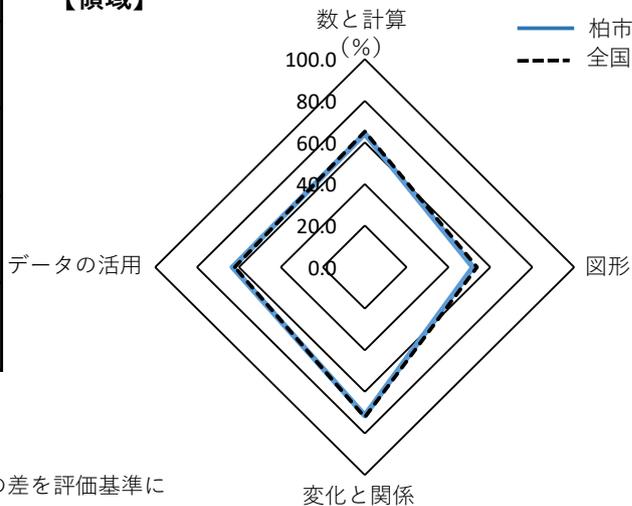
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・ 総合的に全国平均正答率とほぼ同等。
- ・ 問題形式を問わず、どの観点、どの領域においても、全国平均正答率とほぼ同等。
- ・ 「データの活用」領域は、全国平均正答率との差が、プラスポイントである。
- ・ 四則計算や四捨五入に関する設問に課題が見られる。該当する単元で練習を繰り返すばかりでなく、他の領域や単元での計算でも使用し、定着させていきたい。
- ・ 「図形」領域では、合同な三角形をかくための条件を記述する設問の無解答率が高い。また、立方体の辺と面の垂直を問う設問の正答率は、全国値と同様に低い。図形を操作して図形についての見方や感覚を高めたり、用語を用いて説明し合う活動を取り入れたりしていきたい。

6年生 (小・算数)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		66.5	68.1	-1.6	≒
基礎		71.2	72.8	-1.6	≒
応用		57.0	58.6	-1.6	≒
出題形式	選択式	67.5	68.2	-0.7	≒
	短答式	72.1	74.6	-2.5	▽
	記述式	25.9	27.4	-1.5	≒
観点	知識・技能	69.6	71.3	-1.7	≒
	思考・判断・表現	57.4	58.9	-1.5	≒
領域	数と計算	71.9	74.7	-2.8	▽
	図形	68.8	68.1	0.7	≒
	変化と関係	63.5	63.8	-0.3	≒
	データの活用	52.9	55.4	-2.5	▽

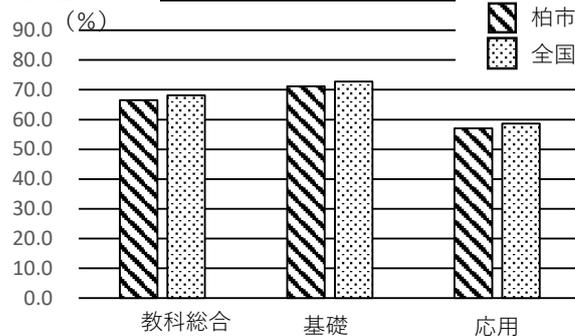
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

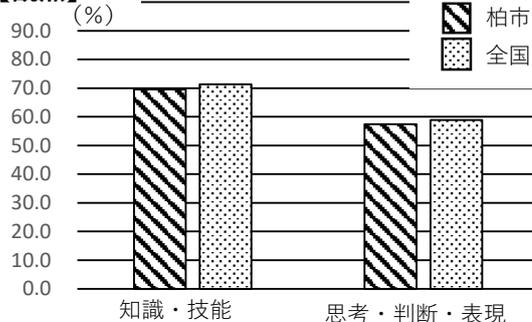
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

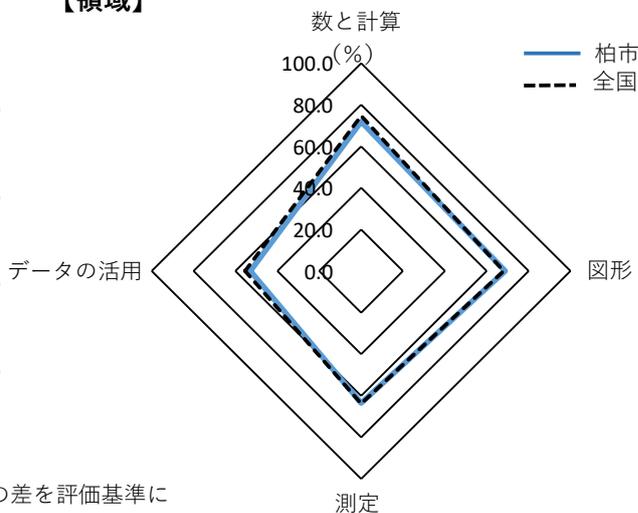
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・ 総合的に全国平均正答率とほぼ同等。
- ・ 基礎，応用ともに全国平均正答率とほぼ同等。
- ・ 「数と計算」領域は，他の領域と比べ二極化が顕著である。個に応じた指導・支援をしていく必要がある。
- ・ 「変化と関係」領域では，割合の問題文を表した図がどれかを正しく判断する設問の正答率が高い。
- ・ 「データの活用」領域の自分の考えや理由を記述する問題では，全国値同様に無解答率が高い数値となっている。授業では，問いに対する答えの共有だけでなく，思考過程を共有して吟味することを大切にして取り入れていきたい。

4 教科別調査結果概要 【中学校】

(1) 国語 平均正答率 (%)

1年生 (中・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		65.1	64.2	0.9	≒
基礎		68.3	67.2	1.1	≒
応用		46.1	46.1	0.0	≒
出題形式	選択式	68.4	67.7	0.7	≒
	短答式	66.4	64.5	1.9	≒
	記述式	43.3	43.3	0.0	≒
観点	知識・技能	74.0	72.6	1.4	≒
	思考・判断・表現	58.5	57.9	0.6	≒
領域	言葉・情報・言語文化	74.0	72.6	1.4	≒
	話すこと・聞くこと	75.6	75.8	-0.2	≒
	書くこと	42.2	41.5	0.7	≒
	読むこと	52.1	51.4	0.7	≒

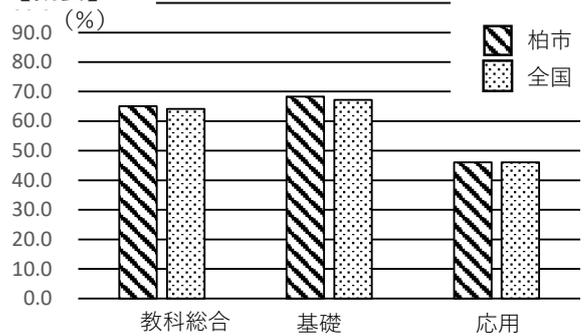
評価基準

● 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

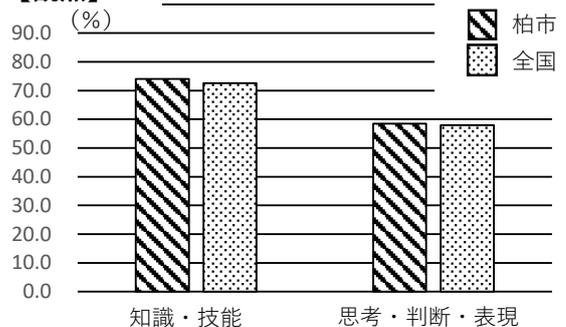
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

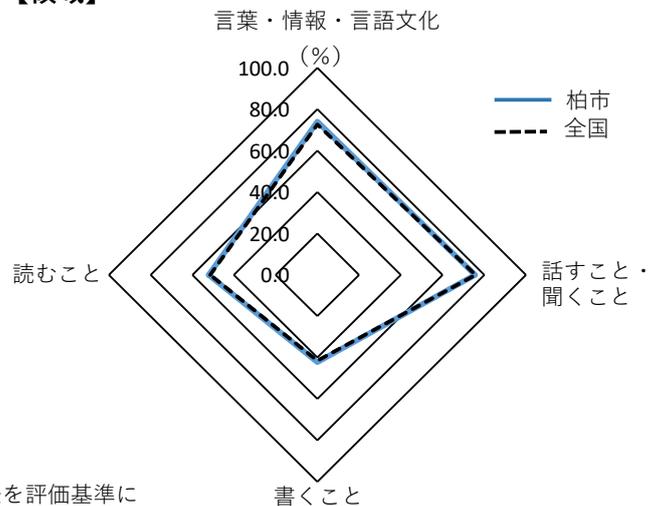
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率とほぼ同等。
- ・出題形式を問わず，どの観点，どの領域でも全国平均正答率とほぼ同等。
- ・言語に関することは，全国平均正答率とほぼ同等だけでなく，上回っている設問も多い。
- ・読むことは，物語・説明文どちらも内容の大体を解釈することができている。しかし，読み取ったことを踏まえて記述する設問は平均正答率が全国と同様に低い。また，無解答率も高くなっている。叙述や描写を基に自分の考えを記述するだけでなく，友達と共有し，考えを確かなものにする活動を充実させたい。
- ・書くことは，提案書についての設問があった。様々な資料から必要な情報を整理し，根拠を明確にして記述する力を高めていく必要がある。授業の中で意見文や報告文等の言語活動を行う際は，書いたものを推敲することで，読み手の立場に立って，根拠の明確さ等を確認できるようにしていきたい。

2年生 (中・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		74.9	74.3	0.6	≒
基礎		76.7	76.0	0.7	≒
応用		63.8	63.5	0.3	≒
出題形式	選択式	74.9	74.2	0.7	≒
	短答式	80.3	79.9	0.4	≒
	記述式	60.2	59.7	0.5	≒
観点	知識・技能	78.7	78.4	0.3	≒
	思考・判断・表現	71.8	70.9	0.9	≒
領域	言葉・情報・言語文化	78.7	78.4	0.3	≒
	話すこと・聞くこと	81.0	80.1	0.9	≒
	書くこと	66.5	66.0	0.5	≒
	読むこと	65.2	64.0	1.2	≒

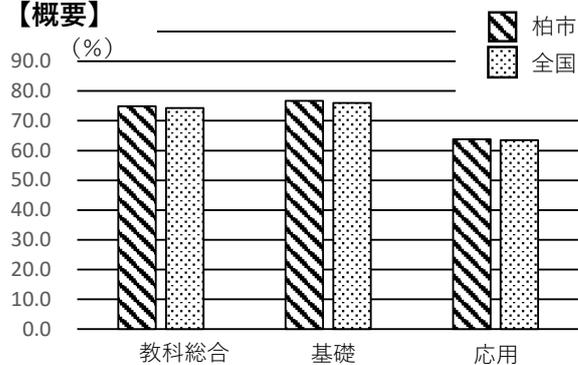
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

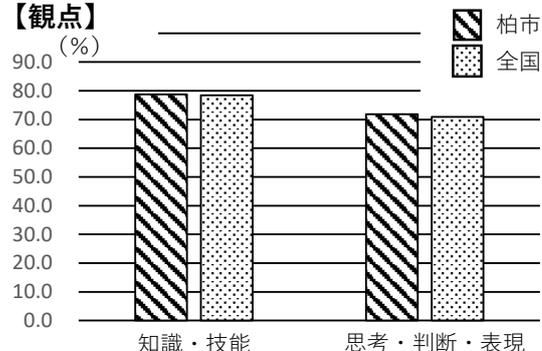
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

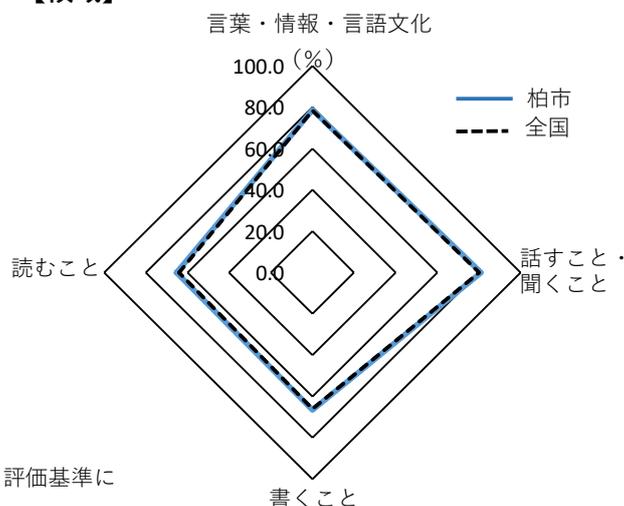
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率とほぼ同等。
- ・出題形式を問わず、どの観点、どの領域でも全国平均正答率とほぼ同等で、差は全てプラスであった。
- ・設問によっては正答率に差が見られ、中には全国平均正答率を大幅に上回っているものもある。
- ・読むことは、説明文・物語文のどちらも全国平均正答率との差は全てプラスであり、内容の解釈はできている。しかし、読み取ったことだけでなく、読んで話し合ったことを踏まえて記述する設問は正答率が全国同様に40%弱と低い。授業の中でも、話し合った後に自分の考えをまとめる活動をさらに取り入れていきたい。
- ・書くことは、提案書についての設問があった。様々な資料から必要な情報を整理し、根拠を明確にして記述することはできている。一方で、誤答と無解答率の割合が同等で他の設問より高いので、個に応じた指導・支援をする必要がある。

(2) 数学 平均正答率 (%)

1年生 (中・数学)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		52.9	50.7	2.2	○
基礎		60.5	58.2	2.3	○
応用		23.7	21.9	1.8	≒
平均正答率 (%)	出題形式				
	選択式	64.6	62.7	1.9	≒
	短答式	50.9	48.4	2.5	○
	記述式	11.1	9.9	1.2	≒
観点	知識・技能	60.5	58.2	2.3	○
	思考・判断・表現	23.7	21.9	1.8	≒
領域	数と式	53.1	50.8	2.3	○
	関数	50.5	49.2	1.3	≒

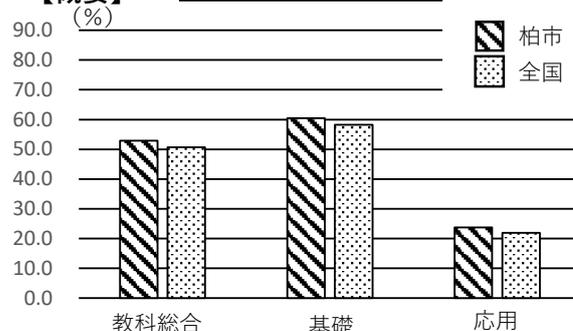
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

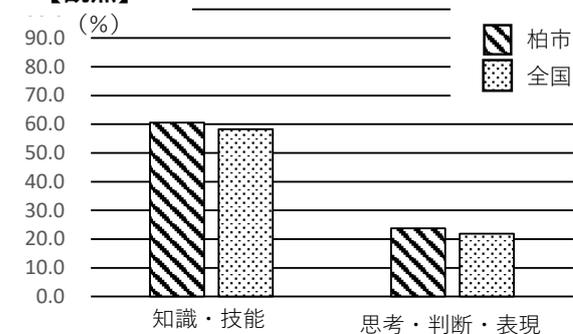
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

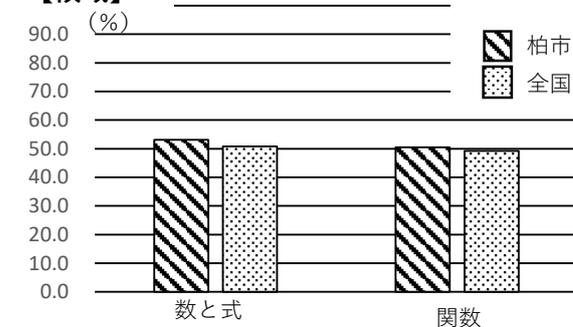
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率をやや上回っており、全国より低い平均正答率の設問はほぼ無かった。
- ・基礎は全国平均正答率をやや上回るが、応用はほぼ同等。
- ・特に正答率が高かった設問は、正負の数で表す設問や図形の周の長さを文字式で表す設問であり、4ポイント以上高かった。
- ・「関数」領域では、グラフを見て比例の式を答える設問の正答率は、全国値と同様に低く、定着の二極化が窺える。関数の意味を理解させるとともに、表や式、グラフを相互に関連付け、関数を判断させる活動を重視したい。
- ・記述式の設問は、無解答率が全国値と同様に高く、課題が見られる。設問で問われていることに必要な条件を問題文と資料の双方から読み取る経験を重ね、無解答を減らしていく必要がある。

2年生 (中・数学)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		53.3	51.3	2.0	○
基礎		56.6	54.5	2.1	○
応用		38.3	36.3	2.0	≒
平均正答率 (%)	出題形式				
	選択式	54.2	52.6	1.6	≒
	短答式	56.6	54.2	2.4	○
	記述式	24.9	23.0	1.9	≒
観点	知識・技能	56.5	54.5	2.0	≒
	思考・判断・表現	41.6	39.5	2.1	○
領域	数と式	49.8	47.2	2.6	○
	図形	55.5	54.5	1.0	≒
	関数	57.0	54.6	2.4	○
	データの活用	55.6	54.0	1.6	≒

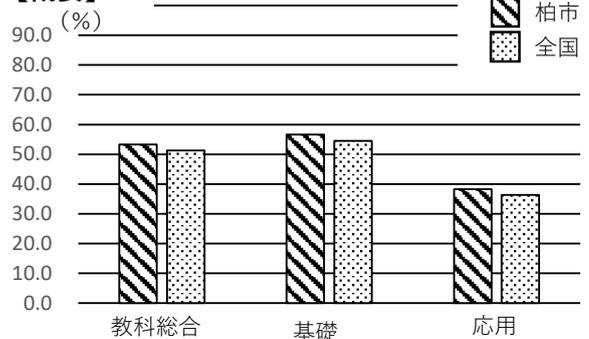
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

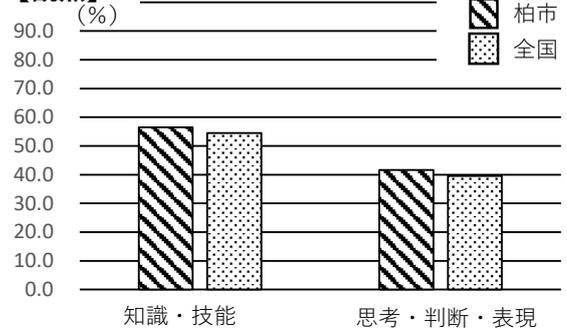
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

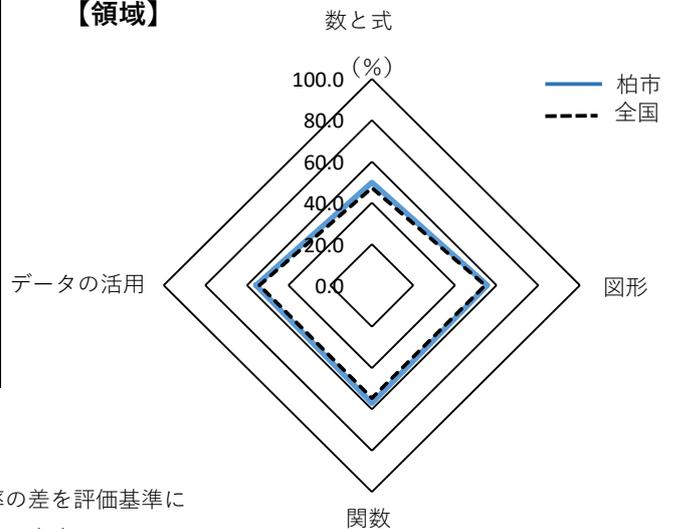
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・ 総合的に全国平均正答率をやや上回る。
- ・ 基礎は全国平均正答率をやや上回るが、応用はほぼ同等。
- ・ 「思考・判断・表現」は、全て全国平均正答率より高く、強みといえる。
- ・ 「図形」領域では、正四角錐の体積を求める設問に課題が見られた。基本的な図形の面積や体積の求め方を理解させるとともに、筋道を立てて説明することを通して、空間図形についての理解を定着させていきたい。
- ・ 問題文から方程式を立てる記述式設問では、無解答率が全国値と同様に高い。着目する必要がある数量を見だし、数量の関係を立式し、解を求めることができるように指導することが重要である。

(3) 英語 平均正答率 (%)

1年生 (中・英語)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		66.8	63.1	3.7	○
基礎		72.2	69.6	2.6	○
応用		52.6	46.1	6.5	◎
平均 正答率 (%)	出題形式				
	選択式	73.1	70.5	2.6	○
	短答式	40.7	38.7	2.0	≒
	記述式	53.2	45.5	7.7	◎
観点	知識・技能	73.5	70.9	2.6	○
	思考・判断・表現	59.6	54.8	4.8	◎
領域	聞くこと	77.5	75.9	1.6	≒
	読むこと	68.8	64.3	4.5	◎
	書くこと	58.3	52.9	5.4	◎

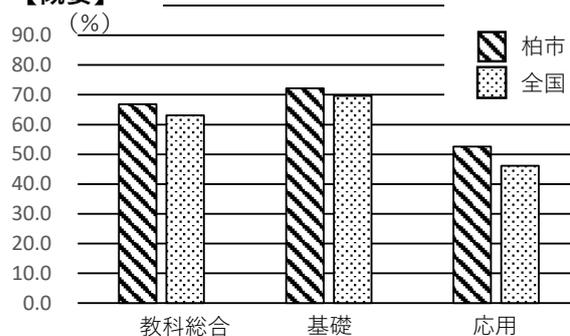
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

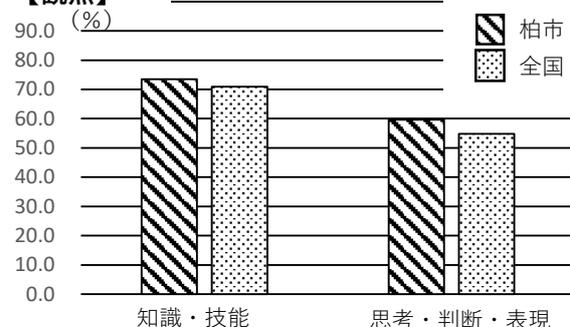
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

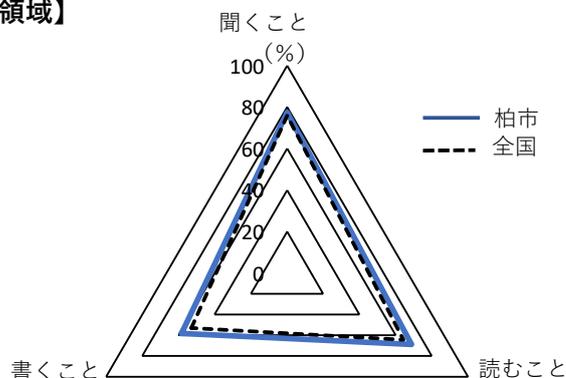
【概要】



【観点】



【領域】



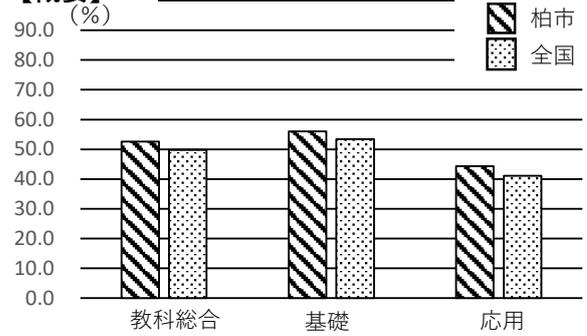
【考察】

- ・総合的に全国平均正答率を上回っている。
- ・基礎は2ポイント、応用は6ポイント以上も全国平均正答率を上回っている。
- ・正答率が50%を切る設問が、全国的にも基礎問題に多い傾向がある。柏市も同様であり、さらに個人差が大きい傾向が見られたので、個に応じた指導・支援をする必要がある。
- ・出題された問題は、ホームページからの情報の読み取りや会話、スピーチ、メッセージのやりとりといった日常生活で見られる多様な形式であった。会話やメッセージ内での質問に対して応答する記述では、全国平均正答率を6~10ポイントと大幅に上回っている。また、その設問の無解答率は全国平均正答率より低く、日常的な英語を表現することに対して抵抗が少ないと考えられる。この強みをさらに伸ばしていけるよう、日常生活と関連させ、生徒に主体的に表現させる活動をより一層進めていきたい。

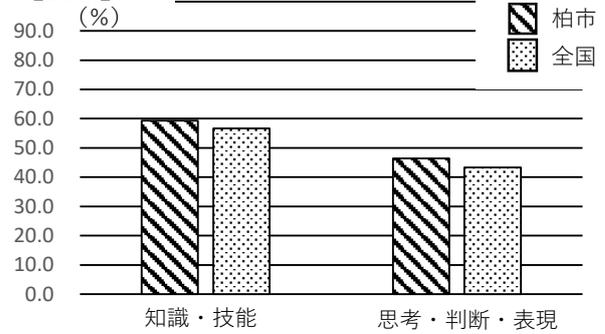
2年生 (中・英語)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		52.6	49.8	2.8	○
基礎		56	53.4	2.6	○
応用		44.3	41.1	3.2	○
出題形式	選択式	57.2	55.3	1.9	≒
	短答式	46.6	41.5	5.1	◎
	記述式	30.5	26.4	4.1	◎
観点	知識・技能	59.3	56.7	2.6	○
	思考・判断・表現	46.4	43.3	3.1	○
領域	聞くこと	60.1	57.9	2.2	○
	読むこと	50.7	48	2.7	○
	書くこと	45.2	41.9	3.3	○

平均正答率 (%)

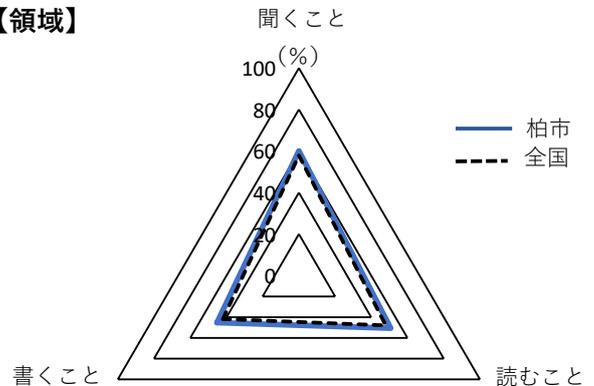
【概要】



【観点】



【領域】



評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

【考察】

- ・総合的に全国平均正答率を上回っている。
- ・どの観点、どの領域も全国平均正答率を約2～3ポイント上回っている。
- ・出題された問題は、校内英語新聞や会話、ブログ、メールでのやりとり、グラフ・表からの情報の読み取りといった日常生活で見られる多様な形式であった。会話やメール内での質問に対して応答する記述では、全国平均正答率をやや上回っている。中には6ポイント上回る設問もあった。この強みをさらに伸ばしていけるよう、日常生活と関連させ、生徒に主体的に表現させる活動をより一層進めていきたい。
- ・一方で、記述式になると、基礎・応用問わず全国的に無解答率が高く、柏市も同様である。特に長文の読み取りは二極化が顕著である。英文を読むことに段階的に慣れさせるとともに、読みとった内容を自分の英語で表現し、共有する活動を重視したい。

(4) 理科 平均正答率 (%)

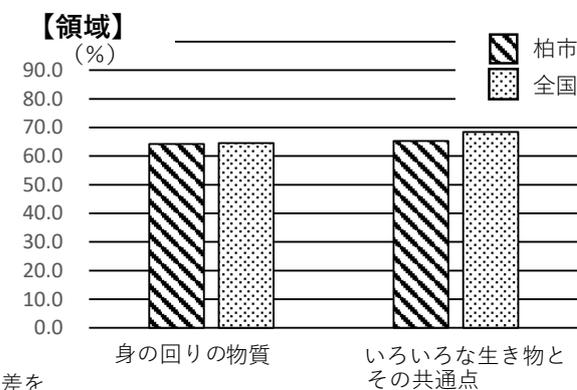
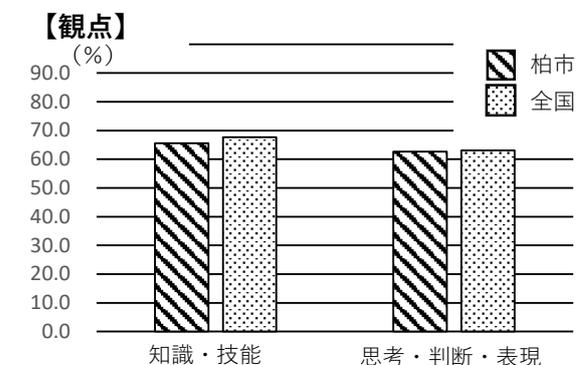
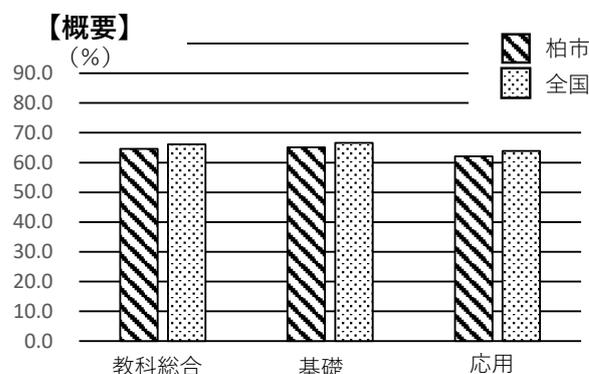
1年生 (中・理科)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		64.6	66.1	-1.5	≒
基礎		65.1	66.6	-1.5	≒
応用		62.1	63.9	-1.8	≒
平均 正答 率 (%)	出題形式				
	選択式	67.6	68.7	-1.1	≒
	短答式	58	61.1	-3.1	▽
	記述式	55.6	57.7	-2.1	▽
観 点	知識・技能	65.6	67.6	-2	≒
	思考・判断・表現	62.6	63	-0.4	≒
領 域	身の回りの物質	64.2	64.6	-0.4	≒
	いろいろな生物とその共通点	65.3	68.4	-3.1	▽

評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

※評価

柏市と全国の平均正答率の差を
評価基準に照らし合わせて判定しています。



【考察】

- ・ 総合的に全国平均正答率とほぼ同等。
- ・ 基礎、応用ともに全国平均正答率とほぼ同等。
- ・ 「知識・技能」の内、状態変化によって体積が変化するなど、物質の状態変化についての平均正答率が全国より4ポイント高かった。
- ・ 一方で、メスシリンダーの測定方法や「溶媒」の意味など、器具の正しい扱い方や役割の理解、理科用語の定着に課題が見られた。観察器具を扱う時間や回数を増やし、使い方を理解する機会を設けたい。
- ・ 「思考・判断・表現」は、実験で得た結果を特定の視点で分析及び解釈し、自分の考えを記述することに課題が見られた。授業では、観察や実験の結果を複数の視点で比較し、差や異なる点、共通点に着目するとともに、規則性や関係性等を見いだす活動を重視したい。

2年生 (中・理科)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		59.2	58.3	0.9	≒
基礎		61.5	60.7	0.8	≒
応用		46.6	45.4	1.2	≒
平均正答率 (%)	出題形式				
	選択式	57.2	56.2	1.0	≒
	短答式	61.9	62.0	-0.1	≒
	記述式	69.4	66.5	2.9	○
観点	知識・技能	61.0	60.4	0.6	≒
	思考・判断・表現	51.3	49.2	2.1	○
領域	身近な物理現象	60.7	61.9	-1.2	≒
	化学変化と原子・分子	54.2	53.4	0.8	≒
	大地の成り立ちと変化	51.9	51.4	0.5	≒
	生物の体のつくりと働き	72.0	68.9	3.1	○

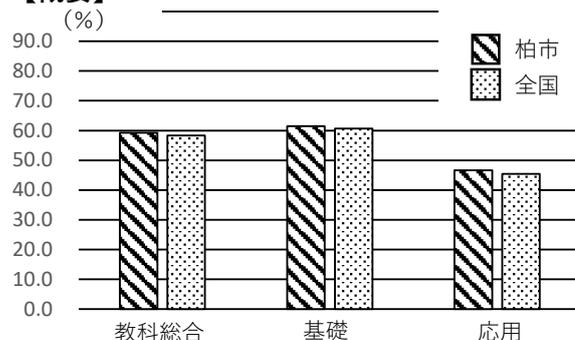
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

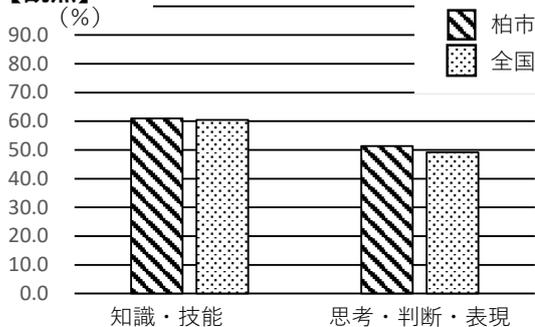
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

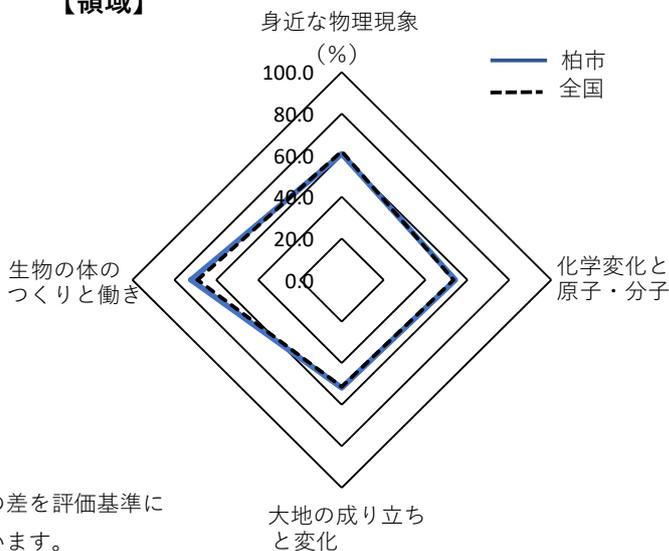
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率とほぼ同等。
- ・基礎、応用ともに全国平均正答率とほぼ同等。
- ・「知識・技能」は、二極化が見られる。特に、名称を答える設問は、無解答率が高い。説明したり、話し合ったりする場面において、名称を正しく使えるように指導・支援して、定着させていく。
- ・「思考・判断・表現」は、ほとんどの設問が全国平均正答率より高く、特に化学変化後の質量について考察する設問は5.9ポイント高い。観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現することに強みがある。
- ・「生物と体のつくりと働き」の領域は、全国平均正答率より3.1ポイント高い。
- ・火山の場所と堆積した火山灰の厚さの関係が提示された表を分析して関係を説明する記述式設問では、無解答率が高かった。情報を整理・分類・関係付けした上で自分の考えを書けるようにする必要がある。

5 「4つのC」

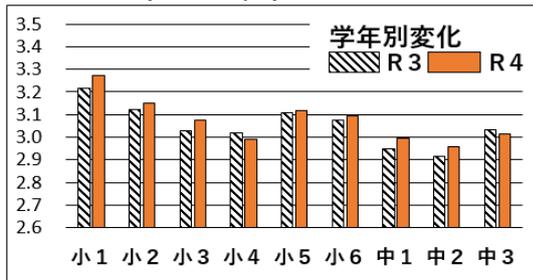
(1) 質問項目一覧

見出し	質問文			
	小学校1・2年生用	小学校3・4年生用	小学校5・6年生用	中学生用
見通す力(Concept)				
夢・目標	しょうらいのゆめはありますか。	しょうらいのゆめはありますか。	しょう来のゆめや目標を持っていますか。	将来の夢や目標を持っていますか。
計画	しゅくだいやべんきょうを、やるじかんをきめてやっていますか。	しゅくだいやべんきょうを、やる時間をきめてやっていますか。	ものごとに取り組む時、計画を立てて取り組んでいますか。	物事に取り組む時、計画を立てて取り組んでいますか。
振り返り	じゅぎょうのあと、わかったこと、わからなかったところがいえますか。	じゅぎょうのあと、わかったこと、わからなかったところがいえますか。	じゅ業のあと、わかったこと、わからなかったことを整理することができますか。	授業のあと、わかったこと、わからなかったことを整理することができますか。
分かる努力	わからないことがあったとき、ひとにきいたり、じぶんでしらべたりしていますか。	わからないことがあったとき、人に聞いたり、自分でしらべたりしていますか。	わからないことがあった時、人に聞いたり自分で調べたりしていますか。	わからないことがあった時、人に聞いたり自分で調べたりしていますか。
改善	なにかをやったあとに、もっとよいやりかたがないかかんがえていますか。	なにかをやったあとに、もっとよいやりかたがないかかんがえていますか。	ものごとに取り組んだ時、どうすればもっと良くできるか考えていますか。	物事に取り組んだ時、どうすればもっと良くできるか考えていますか。
挑戦する力(Challenge)				
目標への努力	そのゆめにむかってがんばっていますか。	そのゆめにむかってがんばっていますか。	しょう来の夢や目標に近づくために努力していますか。	将来の夢や目標に近づくために努力していますか。
粘り強さ	こまったときに、あきらめずにいろいろなやりかたをかんがえていますか。	こまったときに、あきらめずにいろいろなやりかたをかんがえていますか。	困難に直面しても、あきらめずにいろいろな方法をかんがえていますか。	困難に直面しても、あきらめずにいろいろな方法をかんがえていますか。
挑戦	むずかしいとおもうことでもちろんしていますか。	むずかしいと思うことでもちろんしていますか。	自分には難しいと思うことで、失敗をおそれないで挑戦していますか。	自分には難しいと思うことで、失敗をおそれないで挑戦していますか。
関わり合う力(Communication)				
相手の立場に立つて考える力	がっこうで、ともだちのきもちをかんがえてこうどうしていますか。	学校で、友だちのきもちをかんがえてこうどうしていますか。	ふだんの生活の中で、相手の立場・気持ちをかんがえて行動していますか。	普段の生活の中で、相手の立場・気持ちをかんがえて行動していますか。
思いやり	ともだちにやさしくしていますか。	友だちにやさしくしていますか。	人に思いやりの気持ちを持ってせっしていますか。	人に思いやりの気持ちを持って接していますか。
伝える力	せんせいやともだちに、いいたいことをうまくはなすことはできますか。	先生や友だちに言いたいことをうまく話すことはできますか。	先生や友だちに伝えたいことをうまく説明することはできますか。	先生や友だちに伝えたいことをうまく説明することはできますか。
傾聴	はなしあいをするとき、ともだちのはなしをしっかりと聞いていますか。	話し合いをするとき、友だちの話をしっかりと聞いていますか。	話し合いをする時、相手の考えを最後まで聞いていますか。	話し合いをする時、相手の考えを最後まで聞いていますか。
相談する力	いやなことがあったときに、ひとにそうだんしていますか。	いやなことがあったときに、人にそうだんしていますか。	なやんでいること、こまっていることがあった時、人に相談していますか。	悩んでいること、困っていることがあった時、人に相談していますか。
協働	クラスのもくひょうにむかって、せんせいやともだちといっしょにがんばることができますか。	クラスのもくひょうにむかって、先生や友だちといっしょにがんばることができますか。	クラス全体での目標達成や問題かい決に向かって、周りの人と協力することができますか。	クラス全体での目標達成や問題解決に向かって、周りの人と協力することができますか。
地域との関わり	がっこうでべんきょうしたことを、だれかのためにやくだてたいとおもいますか。	学校でべんきょうしたことを、だれかのためにやくだてたいとおもいますか。	学校などで学んだことを、地いきや社会のために役だてたいとおもいますか。	学校などで学んだことを、地域や社会のために役だてたいとおもいますか。
自律する力(Control)				
主体性	じぶんのことはじぶんでやろうとしていますか。	自分のことは自分でやろうとしていますか。	自分がすべきと思うことを自ら進んでやっていますか。	自分がすべきと思うことを自ら進んでやっていますか。
自己肯定感	じぶんのことがすきですか。	自分のことがすきですか。	自分のことが好きですか。	自分の長所・短所を含め、自分のことを受け入れることができますか。
規範意識	ルールをまもることができますか。	ルールをまもることができますか。	学校のきそくやクラスで決めたことについて、なぜそれがいいか、なぜ守らなければいけないかをかんがえることができますか。	学校の規則やクラスで決めたことについて、なぜそれがいいか、なぜ守らなければいけないかをかんがえることができますか。

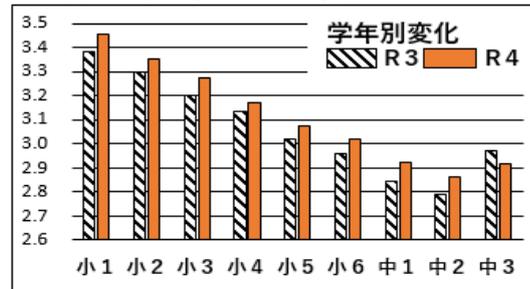
(2) 「4つのC」の概況 ※4段階評価

		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
見通す力 (Concept)	R3	3.22	3.12	3.03	3.02	3.11	3.07	2.95	2.91	3.04
	R4	3.27	3.15	3.08	2.99	3.12	3.09	3.00	2.96	3.01
挑戦する力 (Challenge)	R3	3.38	3.30	3.20	3.13	3.02	2.96	2.84	2.79	2.97
	R4	3.45	3.35	3.27	3.17	3.07	3.02	2.92	2.86	2.92
関わり合う力 (Communication)	R3	3.44	3.37	3.28	3.25	3.15	3.08	3.06	3.06	3.12
	R4	3.48	3.38	3.33	3.26	3.16	3.13	3.11	3.12	3.17
自律する力 (Control)	R3	3.41	3.35	3.25	3.21	3.05	2.96	3.06	3.05	3.14
	R4	3.43	3.35	3.26	3.21	3.06	3.00	3.11	3.10	3.14

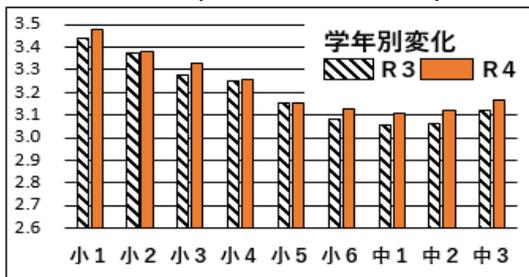
見通す力(Concept)



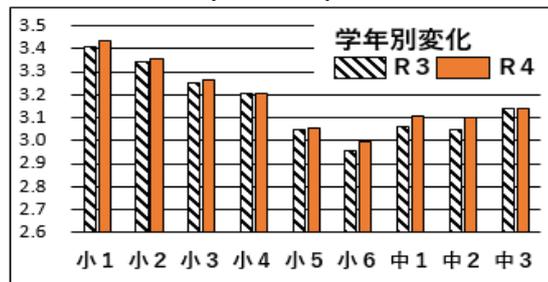
挑戦する力(Challenge)



関わり合う力(Communication)



自律する力(Control)



見通す力 (Concept)	昨年度よりも数値が高い学年が多い。特に分からなかったことを人に聞いたり、調べたりできると感じる子供が多い。また、改善方法を考えようとする子供も少し増えているので、計画を立てる力に生かせるようにしていく。
挑戦する力 (Challenge)	中学校3年生以外は、昨年度よりも数値が高くなった。挑戦する力の伸びが現れてきているが、学齢期が進むと数値が落ち込む傾向は、昨年度と同様である。「学び続ける力の育成」に向けても、諦めることなくやり遂げる力の指導を継続していく。
関わり合う力 (Communication)	「4つのC」の内、平均値が小・中ともに最も高い項目である。人に対して温かい心で接したり、意見を最後まで聞こうとしたり、他者を受け止めようとする子供が多い。しかし、自分の考え・意見を説明できると考えている子供は、それに比べると少ない。自己表現する機会を充実させていく。
自律する力 (Control)	各項目において、昨年度より数値が高くなっている学年が多い傾向が見られる。小・中ともに規範意識の高い子供が多い。同様に自己肯定感も高めていく必要がある。自己の成長を振り返ったり、友達と認め合ったりする機会を大事にしていく。

各学校毎のデータは、それぞれが掲げる学校教育目標の具現化が図られたかを示す根拠となり得る。この数値を基に、なぜそのような結果なのか、あるいは変容したのかを全教職員で話し合い、次年度の教育改善に向けた具体的手立てを生み出すための資料（データ）として活用してほしい。

令和4年度 柏市学力・学習状況調査結果報告

編集 柏市教育委員会 教育研究所

発行 2023年3月